

西多摩農業改良普及センターからのお知らせ

厳寒期におけるハウレンソウの栽培管理と品種選定について



主事 岡村 亮



ハウレンソウは、ヒユ科で冷涼な気候を好み、高温には弱い作物です。生育適温は15～20℃ですが、4℃でも発芽します。冬場に品質のよいものを作るためには、ある程度温度が低くても生育する「低温伸長性」のある品種、もしくは在圃性のある品種を選定します。

1. 播種

マルチ（推奨は9415（黒色））1穴に4～5粒播種します。厳寒期ではマルチ被覆が地温上昇に効果的です。発芽を揃えるコツは、覆土を均一にすること、播種後に土を鎮圧することです。密植になりすぎると、葉色が淡く葉肉も薄くなり、株張りが悪くなります。厳寒期の播種では、生育前半が低温にあたるため、トンネル資材やベタかけ資材などの保温資材を活用することで、発芽や生育が揃いやすくなります。

2. 品種選定

ハウレンソウ栽培成功のコツは、品種選定にあります。暑さの残る9月や10月上旬頃までの播種では、耐暑性のある「ハンター」や「エクストリーム」が適しています。「ハンター」はしなやかで作業性が良く、「エクストリーム」はべと病に強い品種です。また、徐々に気温が下がる10月中下旬頃の播種では、低温伸長性のある「スーパーセーブ」や「伸兵衛」が適しており、べと病に強い品種です。なお、冬場にゆっくりと生育する品種で、在圃性を重視したい方は「寒兵衛」や「スナイパー」が適しています（表1）。

表1 ハウレンソウの品種

品種名	種苗会社	低温伸長性の強弱 ※1	べとレース ※2
スーパーセーブ	サカタのたね	○	R1～20
伸兵衛	タキイ種苗	○	R1～12、14、15、16
寒兵衛	タキイ種苗	×	R1～15、17、19
ハンター	カネコ種苗	×	R1～7、9、11、13、15、16
スナイパー	カネコ種苗	△	R1～11、13、15、16
エクストリーム	トキタ種苗	×	R1～19

※1 低温伸長性の強弱：強○、中△、弱×

※2 べとレース：レースとは病原菌の系統・種類を言い、これらの抵抗性を持たない品種は本病が発生しやすい。

3. べと病の防除方法

べと病の病原菌は糸状菌で、平均気温が15℃の多湿条件下で発病しやすく、畑での残渣が発生源となるため、連作すると発生が多くなりやすいです。症状は葉が黄化し、葉裏に灰色のカビが見られるようになります（写真1・2）。厳寒期もべと病の被害が見られますが、特に、春や秋は発生が多くなります。発生前の予防を徹底し、発生が確認されたら、発生初期から徹底防除が必要です。殺菌剤をローテーション散布しましょう（表2）。また、チッソ過多や密植栽培は被害を助長するので注意が必要です。トンネル栽培では、トンネル内でべと病が拡がりやすいため、換気を心掛けましょう。また、べと病が発病した株を出荷すると出荷袋内でもべと病が拡がる恐れがあります。



写真1 ハウレンソウのべと病



写真2 葉裏の様子

表2 ハウレンソウのべと病に登録がある農薬 2025年7月30日現在

農薬名	RACコード	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法
ユニフォーム粒剤	11・4	—	は種前	1回	全面土壌混和
ランマンフロアブル	21	2000倍	3日前	3回以内	散布
ライメイフロアブル	21	2000～4000倍	7日前	2回以内	散布
ピシロックフロアブル	U17	1000倍	前日	2回以内	散布
フェスティバル水和剤	40	2000倍	前日	3回以内	散布

※農薬を使用するときは、使用前に必ずラベルを確認して下さい。